

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4271101372		
法人名	社会福祉法人 せいひ会		
事業所名	グループホーム 翠風		
所在地	長崎県西海市西彼町中山郷2116番地		
自己評価作成日	平成22年1月5日	評価結果市町村受理日	平成22年4月23日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 <http://ngs-kaigo-kohyo.pref.nagasaki.jp/kaigosip/Top.do>

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉総合評価機構
所在地	長崎市桜町5番3号大同生命長崎ビル8階
訪問調査日	平成22年2月24日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当事業所の理念にも謳われていますが、ご利用者の方々に「最後まで人間らしく生きてもらうこと。」をモットーとして日々の業務に取り組んでいます。人間らしく、とは一体どういうことなのかを考えると、それは常に「マイペース」であり続けることだと思います。人にはそれぞれに自分なりのペースがあるように、決して他者のペースに合わせてしまうのではなく、自分の思うままの生活パターンやスタンスで過ごして頂くほうが生活の質の向上にもつながるはずです。そうした中でご利用者の意外な一面が見えたり、同じ家族、生活共同体としての関係が構築されていくのではないのでしょうか。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

管理者自らが自己評価、外部評価における意義を理解しており、常に前向きに取り組んでいる。理念に基づいた支援を全職員で共有化している。その人らしさを重んじた介護の姿勢があり、利用者の自立に向けた支援に繋がっている。身体拘束においてはしないのが当たり前、「何故」を理解する取り組みがされている。声かけや言葉使いにおいては利用者を尊重した言葉の対応がされている。排泄自立は24時間パターンの排泄チェック表や習慣などを把握しながら、トイレ誘導の支援がされている。中庭には畑があり利用者が畑仕事をするなど、毎日張り合いを持てる環境作りがされている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所独自の理念を掲げ、全職員を通じ、共有を図っている。地域密着型サービスの実践としては地域の行事に出かけたり、また法人スペースを共同使用したりしている。	「最後まで人間らしく…」の理念に基づき支援している。利用者個々の生活環境を踏まえながら、自分らしく暮らせる事を大切にしている。地域行事にも参加し生活範囲を広げている。理念はその都度確認し、意見交換をして実践に繋げている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域保育園での運動会や花火大会参加。また地元地区と合同での敬老会や新年会を開催し交流している。	地域保育園の運動会に参加している。西彼町の西彼会合同敬老会では事業所の理事長挨拶や管理職は司会を担当している。近隣の神社祭りの参加をしている。書道、陶芸ではボランティアの指導を受けるなど日常的に交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	様々な地域での行事に参加することに加え、広報誌(せいひ会だより)にて紹介している。またホームページの公開の行っており誰もが閲覧できる。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	市職員を始め、地域住民やご家族が参加し実施しており、事業所の日常風景の紹介や防災について等議題は様々である。	2ヶ月に1回規定のメンバーと時々派出所の警察官参加で実施している。行事案内の報告、防災等を説明している。参加者からの提案で、利用者の写真を送付している。又風水害対策マニュアル作成する等意見を反映させている。	運営推進会議の議題は行事や事業所の様子などの報告だけでなく、事業所の取り組み内容や改善課題を話し合い、地域の理解と支援を得るための機会となるよう会議の工夫を期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議の開催によりかかわりを持つとともに、法人総務部を通して行っている。	利用者に関する悩みや相談などについて、福祉協議会とのやりとりをしている。西海市地域密着型サービス事業連絡協議会に加入しており、ケアサービスの取り組みや介護保険に関する相談をするなど協力関係を築くよう取り組んでいる。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止委員会を中心とする委員会活動を始め、日頃から啓発を行っている。	法人内の身体拘束廃止委員会を中心として啓発活動を行っている。月1度の利用者の介護に関する会議である在宅会議Ⅱで意見交換し、利用者の尊厳を重んじその場を離れる時の言葉かけに注意するなど拘束をしないケアに取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束委員会やマナー向上委員会等の委員会活動を中心に、啓発活動を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修等に参加して成年後見制度について学ぶとともに、会議等において職員に還元している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用契約時に利用約款の説明を行っているが都度疑問点がないか尋ね納得を図っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居の際は事前に説明しており、また苦情案内の掲示とともに、ご意見箱の設置も行っている。またご利用者については、運営推進会議にご出席頂く等の工夫も行っている。	家族の要望、苦情相談については重要事項説明書に記載するとともに、契約時に説明しており外部窓口は掲示している。又意見箱を玄関に設置している。何かあれば即対応出来る体制作りがある。家族の面会時には一緒に職員も会話して意見や要望を聞くように努めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に1度グループホーム職員で構成する会議を実施し、加えて随時のミーティングで職員の意見を反映させている。	月に1度の職員会議で職員の意見や要望を聞いている。日々の申し送り時でも職員に耳を傾ける姿勢がある。脱衣所が濡れるとの声から、滑り止めマットが設置されている。職員の提案、要望、相談は職員会議を通じて管理者、代表者へ繋げるしくみ作りがされている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は職員個々の努力や実績、勤務状況等を把握しており、法人総務部をもって体制を確保している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内での研修を始め、その案内は掲示板に掲示し、積極的に参加を促している。また参加した場合は報告書として提出している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	今後の取り組みの一つとしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	実際にご本人様を訪問または事業所までおこしいただき、まずはご希望を伺うことから始めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居に際しては必ずご希望やわからない事がないかをお伺いし、また入居後にも継続して行っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	法人内の他事業所とも十分に協議して、ご家族にも説明を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	介護者と被介護者という関係ではなく、職員も生活共同体として位置づけ、入居者より教わる姿勢を大切にしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族からの要望は可能な範囲で受け入れるようにし、ともに支えあう体制づくりに努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご希望によって外出支援する事に加え、ご家族にも呼びかけて協力を得ている。	入居時の生活歴を参考にし、個々に合わせて対応している。個別支援として墓参り、馴染みの美容室でのカラーリングに出かけている。家族との外出、外泊、食事などを行い、馴染みの関係が途切れないよう、支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	集団の中から孤立してしまわないよう、ご利用者が一堂に会する場所も設けており、必要に応じて支援を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	当事業所はもちろん、法人全体においても関わり、必要な情報は提供するよう努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日頃の生活や暮らしぶりの中からご希望を引き出すように意識し、個別での対応により検討を行っている。	利用者の思いや好みなどは、毎日の申し送り時に個別ファイルにて把握するようにしている。日頃の水分補給では、個々に飲みたい物を聞き好みの物が飲めるように配慮している。困難な場合は家族にも尋ねながら検討して本人本位に支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前にご家族等や本人様より情報を収集するとともに、生活の中で世間話などを通して引き出し、それを活かすようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	その人それぞれの有する能力を十分に考慮し、見守り介助の重要性を念頭においたケアの提供に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日常生活により本人様のご希望を聞きだしたり、ご家族の来苑の際には面会して話を聞く等、立案に反映させている。	本人や家族より要望があれば記録し確認を得るようにしている。入居時の生活歴を把握しモニタリングとアセスメントを繰り返しながら介護計画を作成している。介護計画は現状に応じて3ヶ月1回の見直しをしている。状況に応じてはその都度見直ししている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子は介護記録として残すことで共有できており、それらの情報を参考にしながら介護計画の見直しも行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	法人内には様々な設備が整っており、ご希望に応じて展望風呂での入浴も可能となっている。また書道クラブも実施されている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	消防の立会いのもとでの避難訓練や地域保育園での運動会参加、近隣中・高校からの実習受け入れなどを行っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居の際にご本人やご家族と話し合い、かかりつけ医を決定している。かかりつけ医からは十分な協力体制が得られている。	入居時に家族へ協力医療関係を説明し同意の下、変更している。かかりつけ医は通常家族対応だが、緊急時などは職員が対応している。かかりつけ医受診の場合は家族から報告を受け、申し送り時に法人内看護師に伝えるなど適切な医療を受けられるように支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	グループホームの看護職員ほか、併設老健の医師、及び看護職員、並びに協力病院の医師と24時間体制で対応している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院先の医師やワーカーと随時情報交換を行い、早期に退院できるように努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居の際、当事業所も多様なサービスの種別のうちの一つであり、本人様にとってより良い環境でサービスを受けられる体制にあることを説明している。心身の状況変化に応じて随時対応を検討する。	事業所としての方針は入居時に家族へ説明している。看取の体制はあり、出来る限りの支援をしたいとの思いである。家族においては説明がなされている。管理者は職員へ話しをしてはいるが、きちんとした研修が行われていない。心身の状況変化に応じて随時対応を検討するようにしている。	事業所としての方針は出来る限りの支援をしたいと考えている。但し職員への十分な研修がなされていないのと、精神的不安を抱く職員もいるので、職員に対する研修の検討を期待したい。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の対応については日頃より周知しており、必要によっては併設老健施設の看護職員の応援も得られるようになっている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災対策委員会を中心に避難訓練を実施しており、法人内の隣接各施設はもちろん、消防の協力も得ている。	消防訓練計画書を作成し、夜間想定も行われている。防災対策委員会を中心に年4回防災訓練を実施している。訓練は地域の広報紙でも案内している。緊急時連絡網にて地区の分団、地区長にも伝わるなど地域との協力体制を築いている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	マナー向上委員会を中心とした委員会活動を始め、ご利用者を人生の大先輩として敬う姿勢を大切にしている。	入社時に守秘義務の説明と共に誓約書を作成している。声かけや誘導時の対応マナー等を、全職員で取り組み敬う姿勢を大切にしている。マナー違反を見たら申し送りなどで、お互いに自分の事として振り返る姿勢に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご利用者自身が選択できるような自然な声かけ、支援に努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人一人の生活のリズムが崩れないようにその方のペースを重視して見守りや声かけを行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	併設老健施設へ月に一度美容師の訪問があり、ご希望に応じて利用している。ご家族とともに外出し、散髪される方もおられる。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	汁物の味見や行事の際の調理を始め、食器拭き等もご利用者とともにやっている。また、食事を一緒に摂ることで、旬の食材にまつわる話等もできている。	法人では給食会議が行われており、献立に工夫をしている。汁物の味見や行事の際は利用者と共にやっている。中庭で収穫した野菜類を献立に入れている。職員と一緒に会話しながら楽しめる食事の支援をしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	ケース記録により摂取量の確認を行っており、状況に応じたソフト食の提供や摂取量の少ない方には補食や飲み物を変えて提供する等の工夫をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	ご利用者の状態に応じて声をかけている。必要によっては磨き直し等の介助を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	状態により必要と思われる方にはチェック表を作成し、排泄パターンの把握に努めている。	排泄チェック表を作成し、24時間の排泄パターンの把握に努めている。職員会議にて利用者の誘導のあり方を検討している。新たに入居した利用者で、排泄自立に繋がった例がある。職員は個々の習慣を知ることで自立支援に繋げている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	腹圧をかけたり散歩を行ったりして取り組んでいる。また随時コーヒー等の水分補給をすることに加え、毎朝乳製品を提供している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	ご希望があれば法人内の展望風呂も活用でき、入浴の回数や曜日も人それぞれである。	入浴回数は週3回を基本としており、曜日を決めずに利用者に合わせて支援している。入浴の際は滑り止めマットを使用し、利用者の事故防止に努めている。拒む方は声かけや清拭、時間をずらすなどしている。希望では法人内の露天風呂入浴の支援もしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中の生活においてラジオ体操やレクリエーションでリズムを作り、必要な方には空調や夜間の飲み物の提供を行い安眠を促進している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	ケース記録内に薬表をファイリングしており、常に確認している。また事業所内の看護職員により指示を得ている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日常生活の中で、洗濯物たたみや掃除等において自然と役割が分担されているほか、レクリエーション活動や買い物バスも活用している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ご希望に応じて買い物バスを活用していることに加え、外出・外泊を奨励している。またバスハイク等により外出を支援している。	家族の協力を仰いで、家族との外出、外食をしている。天気の良い日は職員と周辺の散歩や買い物に出かけている。気分転換を兼ね、法人のバスで花見などに出かけている。バスでの外出は利用者の楽しみとなっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	大きな金額については預かり金として総務部により管理し、その都度引き出しながら使用している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	必要に応じて介助を行っており、手紙は総務部にて預かることができる。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関周りには季節ごとの草花を植え、家庭的な雰囲気を出している。また屋内には季節感のあるカレンダーや行事の光景を写した写真を掲示し、穏やかな空間を作っている。	リビングは広く明るく清潔感がある。季節の花やカレンダー、行事の光景写真を掲示している。ソファやこたつがあり、個々に過ごしている。廊下、トイレ、浴室などバリアフリーで動き易い工夫をしている。畑や縁があり、利用者はゆっくり家庭的な雰囲気でも過ごしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テーブル、椅子、ソファ等形の違う場所を確保し、自由に過ごして頂いている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご家族の協力を得ながら椅子等の持ち込みもある。自分の部屋として安心して過ごして頂いている。	利用者の使い慣れた物を持ってきている。壁には家族の写真や趣味の書道を飾っている。こたつやソファ、椅子等があり、個々に合わせた部屋作りをしている。居室はたたみ、フローリングを選べる。換気も良く心地良く過ごせる環境である。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	食事の際に専用の椅子を準備したり、入浴の際には滑り止めマットを使用する等、安全性に配慮している。		